

大澤 隆 教授 追悼

大澤 隆 教授



主なご経歴

- 昭和36年 3月 日本社会事業大学卒業
- 昭和36年 4月 岩手県社会福祉協議会
- 昭和38年 4月 神奈川県川崎児童相談所
- 平成6年 4月 帝京平成短期大学 教授
- 平成7年 4月 東洋英和女学院大学 教授
- 平成13年 4月 岩手県立大学社会福祉学部 教授
- 平成14年 4月 岩手県立大学社会福祉学部福祉経営学科長
- 平成16年 1月27日 逝去

大澤 隆先生を悼む

岩手県立大学社会福祉学部教授・福祉経営学科学科長である大澤 隆先生は、去る1月27日午前2時46分、脾臓腫瘍の急変でお亡くなりになりました。前年の11月14日に本学部と社会福祉研修所共催の講演会があり、そこで元気に神奈川県立大学学長阿部志郎先生のご紹介をされた後、体調不良で検査入院され、年を明けて脾臓腫瘍で長期入院の診断書が出ました。9日にいっそうの体調不良のため再入院、その後治療を続けられたものの、27日に帰らぬ人となりました。通夜は29日、葬儀は30日にご実家のある神奈川県で執り行われ、先生の急逝を悲しみ、その遺徳を偲ぶ多くの関係者が参列しました。本学および県関係者、他大学関係者の参列、また本学をはじめとする学生たちの悲しみの声が、ひとしお関係者の涙を誘うものでありました。「学部や大学に対して、任期をまっとうできなかったことを最後まで悔やんでいる。くれぐれもお詫びをしてくれ」と繰り返し言われたというご遺族からのお話は、先生の責任感の強さと本学への強い思いを感じさせ、ひとしお心が痛むものでした。

先生は岩手県久慈市のお生まれで、全国の範となった岩手県社会福祉協議会の草創期に奉職された後、永く神奈川県社会福祉行政に携わり、東洋英和女学院大学の教授などを経られて、岩手県が平成10年に創設した県立大学の社会福祉学部にもその中核的メンバーとして参画されました。それ以後2期にわたり卒業生を送り、また平成14年に新設された大学院の社会福祉学研究科でもその中心にあって研究指導に当たられ、この3月には先生が直接指導された初の修士が生まれております。大学運営におきましては、先生は評議員・福祉経営学科長として、現下の大学のおかれた厳しい状況の中で、社会福祉学部の行くべき姿について、多くの貴重な指針をお示しいただきました。先生はその学生思いのお人柄、教育熱心なご姿勢をとおして、学生・教員に多大の感銘を与えてくださいました。

岩手における先生のご活躍は、まさに故郷に帰って水を得た魚のごとく、目覚しいものがありました。その経歴と学識と多くの人脈は、岩手の社会福祉分野の人々にとって、まさに待っていた大澤先生でありました。先生の発意による「岩手の福祉の源流を考える会」、「岩手地域福祉計画研究会」などの設立はそうした期待の結実の一つでありました。前者は岩手の福祉の源流にこれからの福祉のあり方を探り、後者は今後の社会福祉のあるべき方向ともいえる地域福祉を先導的に研究するという先生の学の姿勢をそのままに顕したものであります。少子高齢化にあえぐ東北岩手に、先生はまさに「帰りなんいざ」のお気持ちであられたと思います。先生はその白髪のご容貌からも、岩手が似合う真の意味での村夫子であられ、節を大事にされる古武士ともいえました。先生が岩手に蒔かれた種がこれから花咲き実を結ぶ時を迎えようとするこの時期、あまりに突然な訃報に研究会関係者や福祉関係者からあがった驚きと悲鳴の声は、先生の指し示してこられた方向の確かさと指導者としての先生の人間的品格あつてのことといえましょう。

先生とのお別れは真に心の残ることでありますが、先生が学生や岩手の人々に教えられた福祉の心の成長を、はるかに岩手の空から眺め・支え・見守っていただいているものと信じております。先生が学生たちに日ごろ話されていた米国の哲学者M.メイヤロフの言葉―「人間は他人を援助しつづける限り、自分もまた成長する」を、福祉にかかわるわれわれの進むべき道と心して、教育に福祉の実践に取り組みつづけていくつもりであります。

(細江 達郎)